

研修報告書

焼津市議会議長 様

議員氏名 岡田光正

令和 5 年 1 0 月 3 1 日から令和 5 年 1 0 月 3 1 日まで下記のことについて、研修に参加したため、概要について報告いたします。

研修名	第 17 回地域医療政策セミナー
研修の目的	加盟市議会・組合議会による病院経営の健全化のための活動に資することを目的に「地域医療政策セミナー」を開催。）
所 感	<p>守屋 潔、名寄市立総合病院情報センター長による「ICT を活用した地域医療と地域包括ケアシステムとの連携」（名寄市のとりくみ）と荒金英樹、愛生会山科病院消化器外科部長による、食支援の京のまちづくり～新たな医療産業連携の試みについての 2 つの講義を拝聴して参りました。</p> <p>ポスト 2025 年の医療・介護提供体制の姿の 3 つに柱が国より地方自治体に示され全国の自治体が対応を迫られる事を既に、2013 年から ICT 化を進めてきた名寄市を中心とした道北北部の医療連携を基に 2021 年より名寄市地域包括システムとの連携で医療介護連携を完全 ITC 化により実践、講義の中でセンター長の一言、システムを作る側から使う側へ考えを 180 度変えた途端に現在の進展ができたとのお話、機能効率の Information & 価値、当事者意識共創の場たる Communication が必要だという言葉が印象的であった。</p> <p>また、誤嚥性肺炎の防止観点から生まれた京滋 摂食嚥下を考える会の試みについては、医療関係者の考える食から食のプロ、管理栄養士の連携により様々な食品提案がなされ、京介食推進協議会（介護食）が設立された。</p> <p>食を考えていく中で医療・介護用機器および医薬品製造装置等の改良などに気づく場面が多かったとのこと、また幅広いネットワークを活かし販路拡張、食を医療産業連携の材料にしていくなかで、行政との連携の難しさなどを訴えられた。同感であった。</p> <p>ポストコロナに向けて、京都府商工労働観光部ものづくり振興課、公財）京都産業 21 との連携ができたことなど感心させられた。</p>

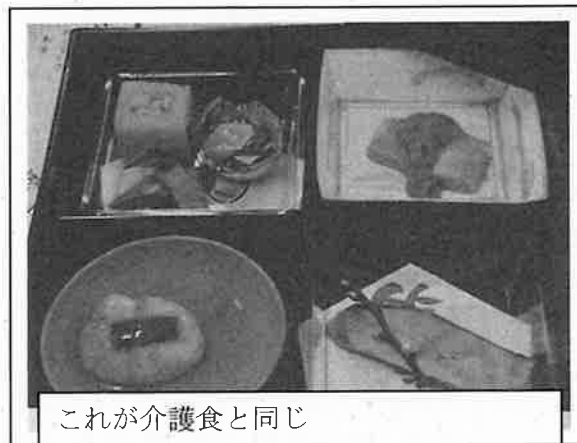
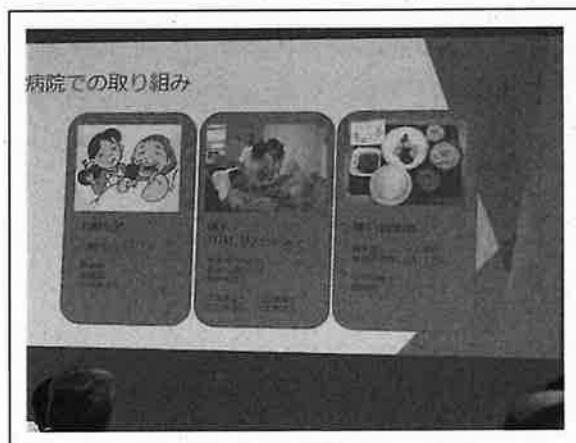
今後の参考となる事項

名寄市の取り組みからのヒント

1. 介護者にとって最も必要なのは利用者の正確な医療情報であることから医療連携の基盤の上に介護連携、すなわち医療介護連携システムの構築が急がれる。
静岡県の場合は医療システムと地域包括システムの連携がどうなっているのか今後研究し、焼津市地域包括システムとマイナンバーシステムによる医療情報の紐付けで医療介護連携システムができるのではないかな。
2. 地域医療情報連携ネットワーク構築事業の補助金は100%使いましょう。

京都の食支援の京のまちづくり

1. 食のまちづくりの考え方、嚥下の問題も解決できる、いつまでも、家族で食事を楽しめるという考えから、病院食や介護食だけではない料亭でも出せる献立の開発など各種プロジェクトができたこと自治体が旗振り役になって行えば素晴らしい物になると思う。



* 上記に書ききれない場合は、適宜別紙を添付してください。

* 参考資料等がある場合は、添付してください。

全国自治体病院経営都市議会協議会 主催

第17回地域医療政策セミナー

プログラム

令和5年10月31日（火）午後1時

於：都市センターホテル3階「コスモスホール」

1 開 会 （午後1時）

2 主催者挨拶 全国自治体病院経営都市議会協議会
会長 山田 典幸
（名寄市議会議長）

3 講 演 （午後1時10分～4時30分）

「地域包括ケアシステムを支える ICT の仕組みづくり」

名寄市立総合病院情報管理センター長
守屋 潔 氏

<休 憩>

「食支援の京のまちづくり ～新たな医療産業連携の試み～」

愛生会山科病院 消化器外科部長

荒金 英樹 氏

4 閉 会 （午後4時40分）

守屋 潔（もりや きよし）

名寄市立総合病院情報管理センター長
兼名寄市健康福祉部参与



プロフィール

- 1985年（S60） 東北大学工学部通信工学科 卒業
民間企業に22年勤務
- 2008年（H20） 旭川医科大学医工連携総研講座特任教授
- 2020年（R2） 名寄市健康福祉部参与（地域包括ケアICTシステム担当）
- 2022年（R4） 名寄市立総合病院情報管理センター長

IT系企業出身で旭川医科大学時代は「医療×ICT」の研究と北海道内の遠隔医療ネットワーク構築に携わる。現在は名寄市を中心として地域包括ケアシステム（医療介護連携）、広域医療連携を支えるICTネットワークの構築と運用管理の責任を担っている。

荒金 英樹（あらがね ひでき）

愛生会山科病院 消化器外科部長
京介食推進協議会 会長



プロフィール

- 1992年3月（H4） 京都府立医科大学医学部卒業
- 1992年4月（H4） 京都府立医科大学 第一外科
- 1993年4月（H5） 済生会京都府病院 外科
- 1996年4月（H8） 京都府立医科大学 消化器外科
- 2000年4月（H12） 一般社団法人愛生会山科病院 外科医長
- 2004年4月（H16） 愛生会山科病院消化器外科部長
- 2010年1月（H22） 京滋摂食嚥下を考える会 代表世話人
- 2019年7月（R1） 京滋摂食嚥下を考える会 顧問
京介食推進協議会 会長

京都の市中一般病院で一般消化器外科に従事。人工栄養とがん患者の栄養管理を専門とし、病院内では多職種とともに栄養サポートチームを編成、疾患に応じた栄養支援をすることで治療の下支えを行っている。また、超高齢社会の招来による摂食嚥下障害、誤嚥性肺炎の増加に対して院内の体制を整備するとともに、地域での医療連携、異業種との交流を通じた「まちづくり」にも取り組んでいる。なかでも京都の伝統食産業の職人とともに介護食を地域の食文化にしようという活動は、地域の産業を巻き込む新たな地域包括ケア 京都モデルを目指している。